



カザフスタン

BOP/ボリュームゾーンビジネス実態調査レポート

カザフスタン共和国 Republic of Kazakhstan

基礎データ

面積	272万4,900平方キロメートル
人口	1,716万人(2014年1月1日現在)
首都	アスタナ(人口87万人)
実質GDP成長率	1.2%(2015年)
名目GDP総額	1,843億5,920万ドル(2015年)
1人当たりの名目GDP	1万508ドル(2015年)

出所: JETROホームページ 国・地域別に見る「ロシア・CIS カザフスタン概況(2016年6月更新)」

■ 調査月日	2015年 6月25日
■ 調査場所	アスタナ市、アルマトイ市
■ 為替レート	1ドル≒184.768 カザフスタン テンゲ(2015年6月平均値)

はじめに

カザフスタンの医療保健は保健社会発展省: Ministry of Health and Social Development of Kazakhstan (MHSD) が所管し、国民健康・医療体制基本法に基づき監督・取り締まりを行っている。実際の統括業務はMHSDの医療施設局が行っている。

ソビエト連邦(以下ソ連)崩壊後、1993年に民間による有料医療が憲法で認められ、市場経済体制への移行が進められた(民間医療施設でも、高度医療等を除く一般診療は無料)。利用できる医療施設は、居住地によって決められていた。2010年から自由選択性になったが、利用者は医療施設を1カ所に決め、MHSD医療施設局・医療施設情報分析センターに登録が必要である。指定以外の診療所や病院も利用はできるが、有料診療となる。

現在、民間の医療施設数は全体の12.3%であり、圧倒的に公立施設が多いが、歯科医院は民間が70%など、診療分野によって異なっている。これら民間医療施設もMHSDの規則や基準等が適用される。

MHSD医療施設局の主な業務

- 各医療施設の入院患者収容計画立案
- 医療業務の公明性監視
- 診療に当たる医療機関と、医療費委員会、各地自治体の保健医療当局間の調整
- 全国の入院患者収容可能なベッド数の把握
- ベッド数が不足する場合の待機患者リスト作成
- 各自治体当局や医療委員会等への情報提供 など

〔カザフスタン国内の医療施設登録数〕

年	公立診療所	公立病院・医療センター	民間診療所	民間病院・医療センター
～1999年	687	230	369	85
～2014年	6,646	882	920	138

〔年間外来患者数〕

年	公立施設	民間施設
2004年	9,930	1,049
2013年	9,500	1,650

(万人)

出所: MHSD

◆ 無料診療制度

政府から公布されたGVFMA(Guaranteed Volume of Free Medical Assistance)*1により、カザフスタン国民およびオラルマン*2は、診療科目ごとに割り振られた予算(それぞれの人口比に応じて各地に配分)の範囲内において、無料診療を受けることが出来る(財源は国庫および各自治体予算)。2011年からはB・C型肝炎検査や、歯列矯正、顎顔面の先天性疾病など子供の診療、体外受精など、高額な検査や治療も一部無料となっている。しかし最近では、すぐに受診でき、医師や治療の質の高さから、民間病院の有料診療を好む人が多い。

*1: 2000年に公布され、その後数回の変更を経て2009年から現行の内容となっている。

*2: 1991年以降、カザフスタン政府の「父祖の地への帰還」の呼びかけに応じ、モンゴルやウズベキスタン等から帰還した人々。

◆ 医療保険

カザフスタンでは国民皆加入の公的医療保険制度はなく、民間の保険のみである。これら民間保険は慢性や重度の疾病が対象外であるなど、全ての疾病の診療費をカバーするものではない。各保険会社では、それぞれ対象疾病の範囲に応じて掛け金を決めており、救急医療だけを対象とした3～5万テンゲ程度のメニューもあるが、通常10～25万テンゲとなっている。

1990年代に強制保険を実施するための医療基金が設けられたが上手く機能せず、設立2年後に廃止された。現在政府では、「Densaulyk(カザフ語で「健康」の意)計画」に基づき、2016～2021年の間に国民皆保険制度の導入を計画している。「Densaulyk計画」の内容は、国民医療保険の導入の他、国民の健康維持のための生活習慣改善などを目指すとしている。

◆ 診療列車

遠隔地の住民の簡易診療を行うため、2010年から診療列車“Train of Health”を非常事態省とMHSD、カザフスタン国営鉄道が連携し実施している。

列車に医療チームを乗せ全国の路線を巡回し、診療を行うものであり、十分な医療を受けられない遠隔地の住民は、診療列車の訪れを待ち望んでいる。

〔診療列車の仕様〕

運行数:	3本(8両編成)
診療対象:	内科、外科、神経科、口腔科、歯科、耳鼻科、婦人科、泌尿器科、物理療法 など
設備:	レントゲン、心電図、エコー、血液検査設備、胃カメラ等の診断設備、手術室(緊急処置用)など。 大病院の医師と相談しながら診断できる遠隔診断システムも搭載。
受診者数:	年間6万人(1列車当たり1日30～50人)
主な疾患:	高血圧による循環器疾患が多い。
診療費:	基本的に無料。有料の場合も、アスタナやアルマトイなど大都市に行くより10分の1程度で済む。



診療列車内の医師



受診を待つ住民



◆ 診療所、病院

通常診療を受ける手順は、まず掛かり付けの診療所で診断を受け、病院での治療が必要な場合は、入院の要・不要と治療を受けるべき病院を指定した紹介状を医師に書いてもらい、病院に行くこととなる。

〔主な公立病院(アスタナ市)〕


病院名	職員数	ベッド数	設備	その他
JSC National Scientific Cardiac Surgery Center	800人(医師:152人、看護師:276人)	昼夜モニター付き集中治療室:[2部屋] 36床 一般病室:200床	手術室:6 高度診療機器:血管撮影装置、人工心肺、心疾患用エコーなど	
Hospital No.1	医師・看護師:292人 医療技師等:505人	638床	欧米および日本製の医療機器を装備。	診療科目は28科目。診療は無料であるが、エコーや紫外線撮影、吸入治療などは有料。
National Scientific Medical Center				学際的な医療教育機関で、患者の診療も行っている。

〔主な民間診療所〕

病院名	職員数	設備・その他	
Open Clinic	医師:25人 看護師・医療技師等:35人	心臓科、耳鼻咽喉科、小児科、歯科、神経科、消化器科、眼科、婦人科、泌尿器科など15の高級診療機器を装備。古くから企業の指定診療所として高度検診を実施。診断費は全て有料。 Mondial Assistance、Oil Insurance Company、AP Companiesなどの医療保険会社と提携。 アスタナ市のほか、アルマトイとアティラウ(西部カスピ海沿岸)に診療所を有する。	
International Interteach Clinic		医療保険会社Interteach Corporation(本社:アルマトイ市)傘下の全国展開の診療所グループ。国内診療所は25カ所。そのうち21カ所において救急患者の受け入れが可能となっている。キルギス、トルクメニスタン、ウズベキスタンといった国外にも診療所を有する。 保険会社が運営する診療所なので、Interteachは他の保険会社のように他の診療所と契約する必要が無い。24時間診療で、来訪患者は主にInterteachの保険加入者(保険料は年間15万テンゲ、外国人の場合は同500ユーロ)となっている。	

民間診療所の病室

〔外資系医療施設(アスタナ市)〕

病院名	備考	
Sema (トルコ系診療所)	診療科目:眼科(小児眼科を含む)、小児科、耳鼻咽喉科、婦人科、泌尿器科、神経科、内分泌科、消化器科、外科、整形外科等	
Health City (韓国系診療所グループ)	2015年に開設した国内初のテーラーメイド医療*を行う診療所グループで、予防医療も含めた国際水準の診療に加え、国内の若い医師たちの教育も行っている。 韓国へ医療ツアーが出ており、韓国の病院は毎年5億ドルの診療報酬を得ている。同グループはそうした需要に着目し、診療所設置に至ったものである。診療所はアルマトイ市内の住宅団地に4カ所、およびビジネス街とショッピング・センター内にそれぞれ1カ所の合計6カ所。 *テーラーメイド医療:疾患と検査データやカルテ中心ではなく、患者との信頼関係と患者個人の特性に基づいたアプローチの治療法。	

◆ 有料診療の料金

診療費は基本的に無料であるが、指定以外の診療所や病院を利用する場合、公立の医療施設でも有料となる。主な診療費は公立・民間とも以下のとおり。

診療科目	診療料金(テンゲ)	診療科目	診療料金(テンゲ)
物理療法	2,500～4,500	耳鼻咽喉科	2,000～4,500
小児科	3,500～5,000	内分泌科	3,000～6,000
産婦人科	2,000～5,000	歯科	1,200～5,000
泌尿器科	3,000～5,000	眼科	3,000～5,000
消化器科	3,000～5,000	エコー診断	800～5,000

◆ 健康増進キャンペーン

MHSDは2011年から2015年にかけて、健康増進を目指す“Salamatty Kazakhstan” (Healthy Kazakhstanの意) キャンペーンを実施した。生活習慣の改善を呼びかけるため各種メディアを通じた啓発活動や、各NGOが診療所内に高齢者介護クラブや脳卒中予防センターを設置するなどの取り組みを始めた。

一方、道端の横断幕で喫煙や薬物使用の危険を訴えたり、アスタナやアルマトイの空港に健康生活のパンフレットを置くといった従来の取り組みには限界がきていた。このため、政府では、2016年から2020年までを対象期間として「Densaulyk計画」を実施し、国民皆保険制度の導入に取り組んでいる。国民の間で、少しずつ健康への関心が高まってきている。

◆ 民間医療分野への投資の現状

医薬医療業委員会によると、民間医療施設の市場規模はGVFMAによる国家医療予算と同規模の2,000億テンゲとのものであり、そのほとんどを診療所の医療費収入が占めている。これは、民間診療所が民間病院数の7倍近くと多いこともさることながら、外来患者と入院のどちらを中心としているかによる。

病院では入院患者のために手術などの各種の設備を維持しなければならず運営コストが掛かるが、診療所は外来中心であるため病院ほどの設備を備える必要がなく、運営コストが比較的安く済む一面もある。病院よりも診療所への投資の方がコストを早く回収でき、かつ投資額も少ないため、診療所への投資を好む投資家もいる。この結果、診療所の設備は整うが、病院が設備を充実させることは難しく、外来患者は民間診療所へ、入院は公立病院診療所へ、といった図式となっている。

◆ インタビュー調査

診療所とMHSD関係者および一般家庭にインタビュー調査を実施した。

MHDS副大臣

民間医療施設に交付した医療費予算について、2010年は43億テンゲであったが、2014年には約4倍の169億テンゲに拡大した。医師：11,355人、看護師：14,911人と、医療従事者も以前よりかなり増えており、また、全国の透析センター71カ所のうち、3分の2に当たる44カ所が民間の施設が占めるなど、民間医療施設の発展がめざましい。

Open Clinic(民間診療所:アルマトイ市)婦人科・内分泌科医

現在、1番の問題は、病気が重くなってから初めて医師に掛かる患者がほとんどということ。自覚症状がなくても半年に1回は健康診断を受けるよう啓発しているが、ほとんどの人が聞き流している。自覚症状が現れても素人療法で何とかしようとしたあげく病状が進行し、どうしようもなくなってから初めて医師を訪ねてくる。そのため、すでに重篤な状態に陥っているケースが少なくない。

◆ インタビュー調査 一つつきー

診療所とMHSD関係者および一般家庭にインタビュー調査を実施した。

一般家庭の患者：パワーシャベル運転士(57歳) 月収:15万テンゲ 家族:4人

我が家は、収入の規模から民間診療所が指定病院になっているが、2年前心臓発作を起こし、市内の病院でバイパス手術を受けた。退院後はまた指定診療所で治療を続けているが、心臓外科の医師が毎月替わるので、あまり信用していない。急に具合が悪くなった際は救急車を呼ぶが、救急隊員は専門知識がないのが不満。

◆ まとめ・課題

- 給与水準が低い(下表参照)ことから、公立医療機関の医師の多くは、勤務時間終了後、民間の医療施設でアルバイトをしている。
- 熟練した医師はより良い収入を求めて国外に出るなど離職率も高く、医師不足に繋がっている。
- 貧困層の多い農村部や都市郊外の医師は、経験や知識が浅い若者が多く、診療の質も低いと言われている。

〔医師、看護師の平均月収〕

職種	平均月収(テンゲ)	職種	平均月収(テンゲ)
医師(全体)	114,000	[公立診療所・病院]医師	50,000～90,000
看護師(全体)	80,000	[公立診療所・病院]看護師	49,000～70,000

出所:MHSD